

1937～2010

南京大虐殺幸存者証言集会

【証言】

郭秀蘭さん（女性・78歳）

私の家族は、父方の祖父、祖父の母、両親、私と妹二人の7人家族でした。1937年12月、日本軍が南京に迫り空爆が毎日ありました。昼は100人くらいが入れる大きな防空壕に入り夜になると家に帰ることを何回か繰り返した後、日本軍が南京城に入ってきたと大人たちが言っていました。私たち家族が防空壕に避難していると、三人の日本兵がやってきて、入口のところで機関銃を撃って大勢の人たちを殺しました。私の目の前で両親と8ヶ月になる幼い妹が殺されました。私と妹は、祖父に助け出されました。両親が殺されたために、私と妹は養子に出されました。

【DVD上映】

加害兵士の証言

【報告】

『大東亜聖戦大碑・副碑』建設について

『聖戦大碑』撤去の会より

日 時 : 2010年12月10日（金）
18時30分開会（18時開場）

場 所 : 石川県教育会館2階第1会議室
金沢市香林坊1丁目2-40
TEL 076-222-1241

協力費 : 1,000円

主 催 : 『大東亜聖戦大碑』の撤去を求め、
戦争の美化を許さない会
七尾強制連行問題を調査する会
『南京』60力年金沢連絡会

開 催 趣 意 書

今年9月7日、尖閣諸島沖で中国漁船と日本の海上保安庁の巡視船が衝突するという事態が発生しました。海上保安庁は中国人船長らを逮捕し、日中関係は一挙に緊張しました。船長以外はすぐに釈放しましたが緊張状態は変わりませんでした。石垣簡易裁判所が中国人船長の10日間の拘留延長を決めたことにより日中関係はさらに悪化しました。9月25日、那覇地検が中国人船長を処分保留のまま釈放しましたが、日中関係の緊張状態はしばらく続き、真の解決には至っていません。なぜこのように日中関係が緊張し悪化したのでしょうか。

それは日本政府が、「領土問題は存在しない」、「日本の法律を適用して処理する」という態度を続けたことが原因です。尖閣諸島の領有権は、日本だけではなく中国も台湾も主張しており、領土問題は現に存在しているのです。だから日本の法律を適用して処理することは、日本の領海内で起きたことを認めることになり、中国政府にとっては絶対に認められないことなのです。このことを理解しなければ、同じ事態が繰り返されるだけです。中国の指導者・鄧小平が1978年に日中平和友好条約の批准書交換のために来日したときに、「領土問題の解決は次世代に任せ、当面棚上げにしよう」という趣旨の発言をしたように、日中間の領土問題は当面棚上げにして、時間をかけて話し合って解決していくという方法が、これからの中日関係にとって必要ではないでしょうか。

一方、私たちが住む金沢では、10月11日に石川護国神社境内の「大東亜聖戦大碑」前に「副碑」が完成しました。この「副碑」の碑文の内容は、「聖戦大碑」をさらに補強するものとなっています。歴史的に明らかに侵略戦争であった戦争を賛美する内容の石碑が堂々と建設されたというのは、憲法で表現の自由が保障されているとはいえ、許容範囲を超えたものとしか思えません。これは、中国、韓国などの諸外国との関係でというだけではなく、私たち日本人が主体的に考えなければならない歴史認識の問題ではないでしょうか。

さて、1937年12月の南京大虐殺から73年目の今年も、中国から幸存者を招いて、12月10日に金沢で南京大虐殺幸存者証言集会を開催します。幸存者が高齢化する中で、貴重な証言を聞く機会も残り少なくなっています。南京大虐殺における日本人の加害のこと、中国人の被害のことにつまることなく向き合っていくことが、これからのアジアとの関係を考えていく上で大事なことではないでしょうか。

つきましては、本集会の趣旨をご理解いただき、昨年同様にぜひともご協力いただきますようお願い申し上げます。

2010年11月

「大東亜聖戦大碑」の撤去を求め、戦争の美化を許さない会

七尾強制連行問題を調査する会

「南京」60ヵ年金沢連絡会